

日 時：平成 22 年 2 月 22 日（月）14 時～16 時 15 分

場 所：蒲都市役所 5 階庁議室

出席者：伴捷文委員、荘田博己委員、来本健作委員、伊藤勝美委員、小林静子委員、坂部哲雄委員、山本喜是委員、小池高弘委員、遠山憲章委員、小林俊雄委員、志賀笑子委員、富田忠男委員、金子哲三委員、細江詢次委員、足立守弘委員、和泉潤委員、杉森順子委員
（欠席者：小田妙子委員、山本昌宏委員、大竹富三江委員）

1. あいさつ

足立副市長あいさつ

- ・10 年前に策定した第 3 次総合計画にはなつかしい思いがある。当時の委員には議員含めて女性が 5 名いたが、本日は 3 名（欠席 2 名）。とくに女性委員に期待したい。
- ・目標達成にむけて着実に計画を推進してきた。達成できた施策・事業とそうでないものがある。
- ・「市民とともにつくるまちづくり」で掲げた内容についても、ある程度の進捗状況にある。一方で、まだ行政主導というニュアンスも残っているので、それらを払しょくしたい。市民の参加がないとまちづくりは進まない。
- ・合併については進展しなかった。財政力低下にも対応が求められる。政権交代などの状況を見据えて、今後の方向性をしっかり見極めたい。
- ・市民の思いやニーズをしっかりと受け止めて、実現可能な取組を着実にを行うと同時に、できないことはできない理由をしっかりと説明することが必要である。情報公開、市民主導、協働が求められる。蒲郡は市民が作るという風土を築いていきたい。
- ・蒲都市の状況を熟知されている和泉先生には、今回もご指導お願いしたい。

金原市長あいさつ（公務のため 14：00 頃に到着。議事の途中にあいさつ）

- ・皆さまには大変お忙しいところを総合計画審議会委員をお受け頂き感謝申し上げます。
- ・経済・社会状況等の時代の変化に応じて、計画内容の見直しが求められている。
- ・現在、庁内にて若手職員を中心として見直しのための基礎的な作業を進めている。
- ・今日では、市民協働が重要なキーワードとなっており、市民や各種団体、企業などとの連携がこれまで以上に求められている。
- ・行政の常識にとらわれない発想で、慎重なご審議をお願いしたい。

2. 委嘱状交付

（市長が公務により遅れて到着したため、議事の途中で委嘱状を交付）

3. 自己紹介

（名簿順に自己紹介）

4. 役員選任

（総合計画審議会条例第 4 条に基づき選任）

- ・会長：和泉潤委員（名古屋産業大学教授）を会長に選任
- ・会長の職務代理者：和泉会長より山本喜是（市総代連合会会長）を指名

5. 議事

(1) 第4次総合計画策定基本方針及びスケジュール

（資料1～3について事務局より説明）

和泉会長

- ・まず、これからの審議会の予定を確認したい。全体で4回を予定しているのか。

事務局

- ・2ヶ月に1回程度の頻度で開催を予定している。次回以降に、本来の内容的な審議に入っていきたい。また、開催回数については必要に応じて開催していきたい。

和泉会長

- ・4回では少ない感じを受けた。開催頻度が多くなる場合もあるかと思うので、皆様のご協力をお願いしたい。

事務局

- ・地方自治法の改正などの話も聞いているが、現段階では現状の法律の枠組みに従って進めてまいりたい。

和泉会長

- ・今回の策定の大きなポイントは、市民参加の手法が充実させていることにある。とくにワークショップが重要であろうと思う。

遠山

- ・計画期間が10年間というのは、たいへん長い。場合によっては、途中で市長の変更もあるかと思うが。

事務局

- ・総合計画は、市にとっての最上位の長期的な行財政の指針である。
- ・市長の任期は4年、立候補時にはマニフェストで政策指針を示されるが、総合計画は審議会や職員の検討によって、市の根幹を示す計画として策定しておくことが求められる。
- ・国・県の計画期間も考慮して10年間の計画期間にしている。

和泉会長

- ・行政の計画は一般的に10年間の長期計画が多い。5年間は中期計画といわれる。3年間の実施計画において、短期的な施策・事業を具体的に位置付けて取り組んでいる。
- ・10年間の長期計画では、状況に応じて内容が変わってくる場合もあるので、実施計画の中で柔軟に対応していくことになる。

事務局

- ・審議会の判断によっては、中間段階での見直しを検討することにもなる。

金子委員

- ・道州制の導入による市町村の役割の変化も想定されるので、それらを踏まえた議論も必要である。
- ・道州制についての情報を提供する予定はあるのか。

事務局

- ・適切に情報収集して、審議会においても必要に応じて情報提供を行っていく。

市長が到着し、議事の途中ではあるがあいさつ及び委嘱状の交付を行った

(2) 第3次総合計画の評価・検証

(資料4について事務局より説明)

和泉会長

- ・ただ今のご説明は、第3次総合計画の各分野の達成状況を評価した上で、現状の課題を中心に問題点・課題を整理されている。何か、ご意見・ご質問をお願いしたい。

小池委員

- ・前回、目標人口10万人から2万人減らす人口でよいのか、という議論があったと記憶している。
- ・人口を増やす対策について市として真剣に取り組む必要がある。
- ・人口推計の計算上は7.6万だから、政策加算して8万人を目指すということだった。今回の結果は、具体的な諸施策に取り組んだ結果なのだろうか。市の活力としての人口増加が、産業振興の上でも重要である。
- ・都市景観について。5年前に観光交流立市宣言しており、都市景観のなかにも観光の視点を盛り込む必要がある。
- ・公園・緑地について。子どもが減っている状況のなかで、本当に従来の遊具などが必要なのか。公園の目的や機能は、地域の状況によって異なると思う。

和泉会長

- ・計画フレームをどう捉えていくのか。10年前、人口減少による計画づくりを行った全国でも初めての計画であった。フレームは重要である。蒲都市はどの程度の規模がふさわしいのか、そのイメージを持つことが大事である。
- ・自然増減と社会増減の2つの視点で検証する必要がある。8万人を目標として考えたわけだが、それよりも1,500名多かった。どんな転入・転出があったのかについて、自然増減と合わせて検証しておく必要がある。次回以降、人口について詳細に検討したい。

遠山委員

- ・財政状況に関心がある。人口が増えるとどんな効果がでるのか。住みやすくすることで人口を増やし、ひいては税収を増やすことが、財政にとってもプラスになる。財政状況を改善させるために人口増加を目指しているのか、そのあたりの考え方を教えてほしい。

事務局

(資料5の人口に関するデータを紹介)

- ・とくに働くことができる生産年齢人口が増えれば、納税者として税金を納めるとともに、また日々の経済活動においてお金を使ってもらえる年代として、財政にとってもプラスであろうと思われる

和泉会長

- ・生産年齢人口がお金を稼ぎ、かつ消費くれる年齢層である。産業の担い手としても活躍してもらえる。
- ・人口だけでなく、関連する施策を総合的に推進することで市の活性化を図ることが、財政にとっても良い影響を与えるので重要だ。
- ・その象徴的な指標として目標人口は大切である。

小池委員

- ・蒲都市は、200億円の予算に対して市税が約130億円程度円くらいある。そのうち60億円程度は固定資産税、市民税は40億円くらい、法人税は10億円程度だったかと思う。
- ・産業施策については、商工会議所も市と連携して推進する必要があるが、人口が減れば市民税を払ってくれる層が減ってしまう。高齢化すれば市の活力が低下するのは必然である。行革だけでは難しく、税

収を確保することが不可欠である。

和泉会長

・この10年間、人口増減の実態がどうであったのか、年齢や居住地などを検証することが必要であろう。

杉森委員

・予算の使い道はどのようにわかるのか。財政運営の全体像がわかりにくい。

和泉会長

・財政状況の基礎的な資料が必要であるので、次回以降に関連する資料を提供してほしい。

杉森委員

・現況及び主要課題の順番は、優先度の順番なのか。

事務局

・現計画の体系に従って整理してある。

和泉会長

・参考資料で示されている第3次実績評価シートをまとめたものとして整理されている。

細江委員

・市のアンケートの調査結果では、高齢者福祉と医療の問題が大事であると位置づけられている。

・とくに健康・医療の分野では、この10年間に大きな変化がある。

・本来の公立病院のあり方が問い直されている。そのあたりの内容が足りない。今後市民病院をどのように捉えるのかとい視点が欠けたまま、病診連携などの古い課題が整理されている。

・今後のことを検討するためには10年前の視点のまま課題認識が不足してしまう。新たな課題が整理されていない。

事務局

・資料4は、現計画の項目・内容に沿って整理した結果である。

・地方分権の流れや病院のあり方、さらには地方鉄道などについても国の方針が大きく変わっている。地方自治体の責任や権限も大きく変わってきた。こうした問題は、10年前の市町村の総合計画では何も書かれていなかった。今回の新しい計画には、そのあたりの視点を盛り込みたい。

細江委員

・鉄道と病院の問題はむしろ逆の面がある。公の関与のあり方が変わっている。病院のあり様を根本的にどうするのか、大変大きな問題を含んでいる。現在の課題認識に欠けているように感じる。

事務局

・市職員がまとめた資料なので、課題認識が不足している面もある。今後、各委員からご指摘を頂きながら不足する部分を補っていきたい。

和泉会長

・環境分野でも同様に、課題認識が不足している面がある。

・今後、審議会の場でご指摘頂きながら、次回以降の審議会に生かしていけばよい。

遠山委員

・当時の担当課が作成したものを現担当課が評価しているとのことだが、とても評価が甘いように感じる。

・外部の視点からきちっと評価することも大事である。

和泉会長

・ご指摘のとおりの面もある。市の職員が一生懸命まとめた内容を受け止めて、我々が気づいた点を指摘することが求められるのではないかと。

小池委員

- ・この審議会で、細部にわたってどこまで詰めることができるのか難しい。
- ・ただし、評価の仕方がおかしい点があれば指摘して、再評価してもらえばよい。

和泉会長

- ・医療・福祉や環境など、状況が大きく変わっている分野も多い。
- ・本日の資料持ち帰っていただいて、お気づきの点があれば第2回までに事前に事務局にご意見を願います。

金子委員

- ・10年前の現計画の人口推計の設定については、一般会計における義務的経費・投資的経費の問題から当初予算にも影響があるので、施設整備や職員数などの義務的経費を抑えるためにも8万人に抑える必要があるのではないかとの議論もあった。
- ・職員数の削減は進んできたが、一方で施設の老朽化が問題となっている。施設の改修や見直し、統廃合などはこれまで何か取り組んでいるのか。事務的経費削減の努力はあったのか。
- ・地方が検討・選択しないといけない課題が増えている。前回よりも審議会の回数を増やさないと検討しきれないかもしれない。開催日数は限定でしょうか。

事務局

- ・委員のご意見を踏まえて、開催回数・頻度を増やすことも必要であろうと理解している。
- ・職員数については、集中改革プランに基づき計画よりも前倒しして着実に削減を進めてきた。一方でマンパワー不足が課題になっている状況もみられる。
- ・同様のデータを、資料5でまとめているので、簡単にご紹介したい。

和泉会長

- ・関連するデータもあろうかと思しますので、ご説明をお願いしたい。

(3) 蒲郡市の現況

(資料5について事務局より説明)

和泉会長

- ・小池委員からご指摘のあった景観・公園の議論はどのように扱うか。

小池委員

- ・ワーキングや市民参加などの検討の場もあるようなので、進め方が難しい。
- ・審議会として、事前に検討事項を伝えておくことができるのか、ワーキングや市民参加など検討結果が出てから、それについて検討・対応すればよいのか。

和泉会長

- ・次回までに追加の主要課題などがあれば出して頂いて、次回以降の議論に生かしていきたい。

小池委員

- ・今後10年間に、すでに推進することが決められている施策・事業があれば予備知識として知っておきたいので、関連資料を提供してほしい。

和泉会長

- ・参考資料として、上位計画を示してもらうことが必要か。

事務局

- ・ワーキングで素案作りを進めているが、審議会とワーキングの方向性を共有することも必要である。
- ・ワーキングのリーダーを審議会に同席させるなどの対応を検討したい。

和泉会長

- ・オブザーバーとして入ってもらい、細かい内容について回答できる体制を作っておいてもらう、必要に応じて一緒に議論する場合も必要である。

細江委員

- ・資料3-3と整合が図れるのか。現状では、審議会からフィードバックする機能が無い。ワーキンググループとの関係性も整理して頂きたい。

和泉会長

- ・必要に応じて進め方を変えていくことも必要である。
- ・市民まちづくり会議と審議会をつなげる工夫をお願いしたい。
- ・市民と一緒に議論する場を設けることも大事であろう。
- ・審議会の開催回数を増やすことも含めて、改めて検討していただきたい。
- ・スケジュールにも、フィードバックする関係性が見えるように修正してほしい。

小林委員

- ・分野ごとの検討段階に入ったときに、他の分野の議論に参加できないという心配はないか。
- ・少子化が進むなかで、学校数の問題なども今後見直す必要が出てくるのではないか。

事務局

- ・そのような心配はありません。

和泉会長

- ・学校数の問題なども、現状の課題には書かれていないので、そうした点は審議会から問いかけいかないといけない。

志賀委員

- ・市民まちづくりワークショップとは、どのような形で実施されるものなのか。

事務局

- ・まちづくりセンターを拠点として、随時進めている。
- ・まだ報告を受ける段階には至っていないが、今回の計画策定のポイントにもなるうかと思う。

金子委員

- ・時代の変化のなかで、新しい公という考え方のもと、市民もまちづくりを担っていくことが求められている。
- ・まちづくりセンターが中心となって、市内の9つのNPO法人や市民活動団体などをヒアリングしながら、方向性などを整理して示していきたい。

杉森委員

- ・調査対象はNPO団体だけでしょうか。

金子委員

- ・不特定多数の市民に対しては市民意識調査も実施しているので、今回のワークショップについては、現状では事務局との打ち合わせを踏まえて、基本的にNPO法人の代表を対象にしている。

和泉会長

- ・まちづくりワークショップでは、新年度が始まってしかるべきタイミングに計画の素案を提示して議論してもらうことが大事である。
- ・意識調査ではどうしても偏りもでてくる。生の意見を出し合って議論することも大事であるので、自由に参加できる場があるとありがたい。

志賀委員

- ・市民活動に取り組んでいるグループは、9つのNPO法人だけでなく、数多くある。それらの団体の意

見も聞いてもらえるように、幅広く参加できるようにしてほしい。

和泉会長

- ・ワークショップにぜひご参加いただきたい。

足立委員

- ・各種業界団体との意見交換も1つのワークショップであるといえる。
- ・審議会の委員の皆さんの所属する団体などとも、必要におうじて個別に意見交換を実施したらどうか。
- ・それだけでは拾いきれないような市民のご意見を伺うために、市民意識調査を行い、今後はパブリックコメントも予定している。それでも不足があれば、一般の市民を集めたワークショップも実施したらどうか。

和泉会長

- ・市民参加の仕組みについては、まちづくりセンターと事務局で検討して頂きたい。

(4) 第四次総合計画策定に係る市民アンケート及び市民意識調査の結果

(資料6・7については説明を省略し、詳細は次回検討)

和泉会長

- ・市民参加の仕組みについては、まちづくりセンターと事務局で検討して頂きたい。
- ・アンケートの結果についてのご説明はどうするか。

事務局

- ・時間もありませんので、既にご覧頂いていることを前提として、本日は説明は省略する。
- ・本日配布した資料については、改めてご覧いただきまして、お気づきの点がございましたら直接事務局にご意見を頂ければありがたい。

和泉会長

- ・本日の資料に対するご意見を事務局にお寄せ頂きまして、その結果をとりまとめて次回に議論したらどうか。

(5) その他

伴委員

- ・審議会の委員は委員長のおて職になっているが、役職の変更があれば、審議会のメンバーも変更することになるのか。

事務局

- ・基本にご指摘のとおりです。組織を代表しているのので、各組織の中で検討して頂ければ結構です。

荘田

- ・総合計画では、インフラや介護保険などの国・県の施策・事業についても盛り込むことになるのか。住み分けは必要になるのか。

事務局

- ・国・県の施策・事業も含めて総合的に整理していくことになる。

和泉会長

- ・上位計画として、既存の環境条件として検討していく必要がある。
- ・本日は、情報交換や課題認識、今後の進め方について意見交換を行った。
- ・次回までの検討事項についても、宿題としてお願いしたい。

事務局

- ・本日の資料に対するご意見については、後日締切日をご連絡させていただきたい。
- ・情報共有や迅速な事務連絡のために、メールアドレスなどお持ちでしたら、ご連絡頂くようお願いしたい。

・次回日程：平成 22 年 4 月 2 日（金）13 時 30 分より

（16：15 閉会）